

# 「何十、何百のかけ算 (何十をかけるかけ算)」をわかりやすく解説

## 「何十のかけ算」の考え方ともめ方

2年生の算数では「 $9 \times 9$ 」までのかけ算を勉強したよね。

3年生の算数になると、9よりも大きい「何十のかけ算」が登場するんだ。

$10 \times 3$ とか、 $20 \times 4$ のようなかけ算だね。

何十のかけ算だなんて、とても大きな数に思ってしまうかもしれないけれど、じつはふだんの生活でも、何十のかけ算はよく使っているよ。

たとえば、20円のあめを3こ買うとき。

1こ20円のあめを3こ買います。代金はいくらになりますか。

1こ20円だから、あめが3こだと、次のようにお金をはらったらいいよね。



図でみると、「10円が6まいだから60円」とわかるね。

これを計算で考えてみよう。

「20円のあめが3こ」なのだから、

「20円が3セット」→「 $20 + 20 + 20 = 60$ 円」

と考えることができるね。



これが、何十のかけ算だよ。

式で書くと

$$20 \times 3 = 60$$

となるよ。

ここで、式を見て気づいてほしいポイントがあるんだ。

$20 \times 3 = 60$ の答えのもとめ方なんだけれど、

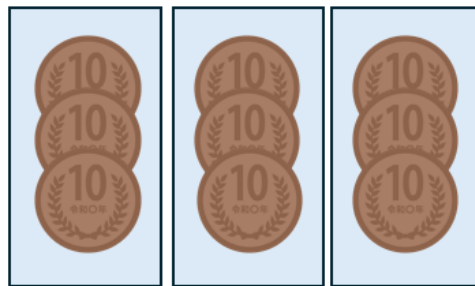
「20」の「2」に「3」をかけると「6」になるよね。

その「6」の後ろに「0」をつけたら、答えの「60」をもとめることができるんだよ。

もうひとつためしてみよう。

1こ30円のあめを3こ買います。代金はいくらになりますか。

1こ30円だから、あめが3こだと、次のようにお金をはらったいいよね。



図でみると、「10円が9まいだから90円」とわかるね。

計算で考えると、

$$\text{「30円が3セット」} \rightarrow \text{「} 30 + 30 + 30 = 60 \text{円」}$$



式で書くと

$$30 \times 3 = 90$$

となるよ。

この問題でも、「30」の「3」と「3」をかけると「9」になって、「9」の後ろに「0」を後ろにつけると、答えの「90」になっているね。

### 「何十のかけ算」の計算のポイント

2つの「何十のかけ算」の問題のポイントをもう一度かくにんしてみよう。

$$20 \times 3 = 60$$

→2と3をかけて「6」。さい後に「0」つける。

$$30 \times 3 = 90$$

→3と3をかけて「9」。さい後に「0」つける。

十のくらいの数と、かける数をかけて、答えに「0」をつけるだけだね。

#### 「何十のかけ算」の計算のポイント

- ・何十の「0」は待っててもらって、ふつうにかけ算をした答えに、あとから「0」をつけたす。

何十のかけ算だなんて、大きい数でおずかしそうに思ってしまったかもしれないけれど、ポイントがわかればとってもかんたんだね



## 何十のかけ算の練習問題

つぎの計算をしましょう。

(1)  $40 \times 2$

(2)  $50 \times 3$

(3)  $60 \times 4$

$40 \times 2$

「40」の「0」には待っていてもらおう。

「 $4 \times 2 = 8$ 」のかけ算をして、答えに「0」をつけたして「80」ともとめられるよ。

$50 \times 3$

「50」の「0」には待っていてもらおう。

「 $5 \times 3 = 15$ 」のかけ算をして、答えに「0」をつけたすと「150」ともとめられるよ。

$60 \times 4$

「60」の「0」には待っていてもらおう。

「 $6 \times 4 = 24$ 」のかけ算をして、答えに「0」をつけたすと「240」ともとめられるよ。

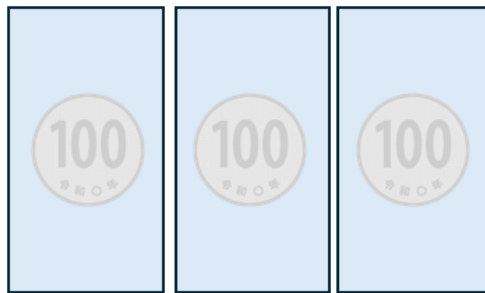


## 「何百のかけ算」の考え方ともめ方

こんどは「何百のかけ算」について考えてみよう。  
何百のかけ算も、ふだんの買い物とかでよく使っていると思うよ。  
考え方は何十のかけ算とおなじなので、あんしんしてね。

1本100円のえんぴつを3本買います。代金はいくらになりますか。

1本100円だから、えんぴつが3本だと、次のようにお金をはらったいいよね。



図で見ると、「100円が3まいだから300円」とわかるね。

計算で考えると、

「100円が3セット」→「 $100 + 100 + 100 = 300$ 円」

式で書くと

$$100 \times 3 = 300$$

となるよ。

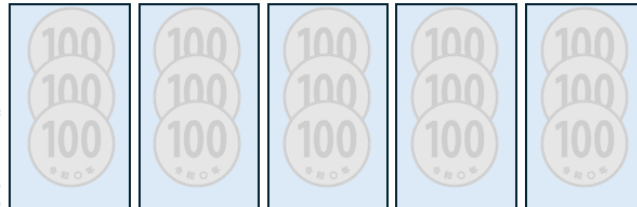
これも、「100」の「1」と「3」をかけると「3」。

「3」の後ろに「0」を2こつけば、答えの「300」になるね。



1本300円の花を5本買います。代金はいくらになりますか。

1本300円だから、花が5本だと、次のようにお金をはらったいいよね。



図でみると、「100円が15まいだから1500円」とわかるね。

計算で考えると、

「300円が5セット」→「 $300 + 300 + 300 + 300 + 300 = 1500$ 円」

式で書くと

$$300 \times 5 = 1500$$

となるよ。

「300」の「3」と「5」と「3」をかけると「15」。

「15」の後ろに「0」を2こつけば、答えの「1500」になるね。

何十のかけ算のときと、考え方はおなじだね。

ただ、何十のかけ算のときは、「0」を1こつけたけれど、何百のかけ算のときは、「0」を2こつけるんだね。

#### 何百のかけ算の計算のポイント

- ・何百の2この「0」は待っていてもらって、ふつうにかけ算をした答えに、あとから2こつけたす。



## 「何百のかけ算」の練習問題

つぎの計算をしましょう。

(1)  $400 \times 2$

(2)  $700 \times 3$

(3)  $800 \times 4$

$400 \times 2$

「400」の2この「0」には待っていてもらおう。

「 $4 \times 2 = 8$ 」のかけ算をして、答えに「0」を2こつけたすと「800」ともとめられるよ。

$400 \times 3$

「700」の2この「0」には待っていてもらおう。

「 $7 \times 3 = 21$ 」のかけ算をして、答えに「0」を2こつけたすと「2100」ともとめられるよ。

$800 \times 4$

「800」の2つの「0」には待っていてもらおう。

「 $8 \times 4 = 32$ 」のかけ算をして、答えに「0」を2こつけたすと「3200」ともとめられるよ。



## 「かけられる数」と「答え」のかんけい

「 $4 \times 2$ 」と「 $40 \times 2$ 」と「 $400 \times 2$ 」をくらべてみよう。  
かけられる数が「10倍」、「100倍」になっているね。

$$\begin{array}{cc} 4 \times 2 & 4 \times 2 \\ \text{10倍} \downarrow & \text{100倍} \downarrow \\ 40 \times 2 & 400 \times 2 \end{array}$$

このとき、答えはどうなっているかというと、

$$\begin{array}{cc} 4 \times 2 = 8 & 4 \times 2 = 8 \\ \text{10倍} \downarrow & \text{100倍} \downarrow \\ 40 \times 2 = 80 & 400 \times 2 = 800 \end{array}$$

答えも「10倍」「100倍」になっているね。

### 「かけられる数」と「答え」のかんけい

- ・ かけられる数が10倍になると、答えも10倍になる。
- ・ かけられる数が100倍になると、答えも100倍になる。

## 「何十、何百のかけ算（何十をかけるかけ算）」まとめ

- ・  $40 \times 3$ のような何十のかけ算は、 $4 \times 3$ を計算してから、さい後に「0」をつける。
- ・  $200 \times 3$ のような何百のかけ算は、 $2 \times 3$ を計算してから、さい後に「0」を2こつける。
- ・ かけられる数が10倍になると答えも10倍になる。
- ・ かけられる数が100倍になると答えも100倍になる。

